



# 天才の育て方

バイオリン協奏曲の中で、最も好きな一曲があります。

チャイコフスキーのバイオリンコンチェルトです。(シベリウスも捨てがたいですが、やはり1位はチャイコフスキーです。)

悠々と響き渡る旋律。

力強くて華麗なカデンツァ。

華やかで盛大なフィナーレ。

何度聞いても素晴らしい曲です。

高校生の頃、先輩方がこの曲を演奏する様をビデオで見て、一目で虜(とりこ)になりました。

しかし、当然のごとく超がつくほどの難曲です。

作曲された当初は、「こんな難しい曲を誰が弾けるんだ」と批判され、世界でも有数のバイオリニストにすら「演奏不可能」として断られたぐらいの曲でした。

今ではたくさん CD や音源が出ていますが、中でも私のお気に入りには五嶋みどりさんの演奏です。

「天才」と名高い五嶋みどりさん。

実は、以前勤めていた私立学校に来てくださったことがあります。

世界でも非常に有名なバイオリニストの一人です。

私の友人で、プロとして演奏を続けている人(名フィルの副コンマス)がいますが、その人も「五嶋みどりのCDは別格だ。」と絶賛していました。

では、その五嶋みどりさんは小さい頃、どんな子供だったのでしょか。

実は五島みどりのお母さん（五嶋節氏）が、1冊の本を出しています。

「天才の育て方」という本です。

そこに、幼少のころのみどりさんの様子が書かれていました。

みどりは、かなり不器用な子供で、ちょっと指の動きが難しくなると、何度練習を繰り返してもうまくいかないときが数えきれない位ありました。

現在の姿とは程遠い感じですよ。

さらに節さんは次のようにつづけました。

逆にそういう箇所を、簡単にさらりとやっけてのける子どももいます。実際に、そういう子どもに何人か出逢い、こういうセンスをみどりも身に付けてくれていたらいいのになと思ったものです。

つまり、「生まれつきの優れた才能」をみどりさんには感じなかったという事なのです。

そして、「そんなセンスを身に付けてくれればな」とも思っていたと。

ところが、この「簡単にさらりとやっけてのけられるセンス」について、節さんは次第に考え方が変わっていったそうです。

ところが、そういう子どもにかぎって、練習を繰り返さないことが多い。さらりとやっけてのけられるものですから、それで、できたと思ってしまう。いくら私が、今のところをもう一度と言っても、繰り返そうとしない。一度できたら、あとはいいかげんにやる。きちんとやりなさいというと、いやいやする。そして、さらりとやっけてのける。

しかし、こういう子どもは、さらに難しい曲に挑戦するようになってさらりとはできなくなったときに、大きな壁にぶつかってしまうことが多いのです。それまで、苦勞せず難なく弾きこなしてきたものですから、いったん弾けなくなった時の精神的ショックも大きい。それを弾けるようになる苦勞の仕方も努力の仕方も分からない。ショックから立ち直る方法もわからない。

つまりは、「さらりとやっけてのける」経験よりも、「失敗したり」「なかなかできない」経験こそが大切であると説いているのです。



私はこの部分を読んだだけで「この本を買ってよかった」と思いました。

「すらすらできる」それはそれで素晴らしい事ですが、もっと大切なのは「失敗や間違いの経験」をどう生かせるかだと思っているからです。

そして、その失敗の価値を学ぶためには、「あえて難しい壁や課題に挑戦する場」が必要なのだと思います。

これは、医学、心理学、行動分析学など様々な専門分野の方も言っておられることです。

出来ることばかりに挑戦するのではなく、あえて失敗や挫折を経験する場を作るということです。

子どもたちが歩いている道の上に、あえてそっと小石をいくつか置いておくようなイメージです。

柔道には、受け身の訓練があります。

登山には、滑落訓練があります。

学習も、同じだと思うのです。

これから先も多くの失敗を経験していく中で、「失敗の練習」をすることは欠くことができません。

その練習の中で、「起き上がり方」を学び、再度チャレンジする「チャレンジ精神」をも身につけることができたならば・・・。

と、このようなことをよく考えています。

ですから、今年もわざと小石を 1 年間の中で置いていこうと思っています。たとえば、百人一首がそうです。

かるたは、必ず「勝ち」と「負け」に分かれます。

そして、この「負け」をおよそ100回経験した時に、驚くほどの効果が出るということを記した報告があります。

精神的に逞しくなり、負けや失敗に対して極度に怒ったり、心を倒してしまったりすることがなくなったと書いてありました。

今後も、子どもたちはおそらく何度も間違い、転ぶことと思います。

その際、私にまずできることは、いざ間違えた時の「声かけ」です。

「良い間違いだなあ。」

「この問題のおかげで君は3倍賢くなりましたね。」

「これは宝物の×だから、決して消さないでくださいね。」

「たくさん失敗した方が絶対に上手になります。」

「間違っ、失敗して、賢くなっていくんです。それがお勉強です。」

まちがえた時・失敗した時の対応こそが、子どもたちの失敗に対する考え方や価値観を決めます。

そして、学習をじっくり行う子であったり、何度も何度も間違っただけで出来るようになっていく子には、私はある種の大きな「才能」を感じます。

間違っただけで、間違っただけで、ようやく丸をもらえる。

失敗して、失敗して、ついに上手にできるようになる。

その過程で、幾度も頭と心が鍛えられたことでしょう。

そんな時は、ことさら強く褒めるようにしています。

こうした経験をくぐった子が、何かの拍子にぐんと力を伸ばす姿を幾度となく見てきたからです。

小学生という発達段階は、植物で言うならば芽が出て本葉が吹き出し、これからまさに幹がグーンと伸びていく時期です。

その中で言えば、「間違い」や「失敗」の経験は、根を伸ばしているのと同じです。

算数で問題を間違っただけで、その答えを消すのではなく、きちんとノートに残しておくことを伝え続けています。

これも、間違いを自分の糧として成長していくための、大切な学習です。

太く強く根を張った幹が、立派な木へと成長するように、しっかりした根を張る経験を積んでほしいと思っています。

前述の五嶋節さんも、次の様に言っています。

どんなジャンルでも、大人になって「一流」と認められている人は、子供のときにそういう苦勞をたくさん積み重ねたのではないかと私は思います。



いよいよ明日、初実施となる宿泊体験を実施することとなります。

クラスでは、次のことをたびたび伝えてきました。

宿泊体験が成功するかどうかは、その日の朝には既に決まっているんだよ

この言葉には、2つの意味が込められています。

1つは、「チームの作り方」です。

そしてもう1つは、「心の整え方」です。

これは例えば「運動会」でもそうですし、「合唱コンクール」などの行事にも同じことが言えます。

競技やコンクールが始まる前に、すでに成功かどうかは決まっています。

それは、「どんな結果になろうとも、それを共に喜び、お互いの努力を讃えられるチームになっているかどうか」が大切であるということなのです。

本番は、何があるか分かりません。

思わぬ不調の波が来ることもあるし、考えられなかったハプニングが起こることもあります。

それでも、お互いに健闘や努力を称え合い、どんな結果であれそれを喜べるチームになっていれば、すでに成功は約束されているといえます。

宿泊体験も同じです。

どんなチームを作ってきたか、ということが、当日の体験の成否を決めるんだよ、という話をこれまでに伝え続けてきたのでした。

初実施となる宿泊体験には、前例が存在しません。

当然、様々なハプニングや不測の事態が予想されます。

3日間もあれば、天気が崩れることも十分に考えられるでしょう。

だからこそ、「どんな事態になっても一緒に楽しむ」というチームや心を作っておくことが大切だということなのです。

ここまで、約3か月間。

クラスがスタートしてから一緒に伴走してきた身として、私はハッキリみんなに伝えることができます。

宿泊体験は、きっと成功します。

それは、すでにみんながそういうチームや心を作ってきているからです。

当日は、色んなハプニングが起きるでしょう。

でも、それらを乗り越えていける、そしてそれを喜べるチームをみんなが作ってきたことこそが、私はこの宿泊体験に向かう上で得た一番の宝なのだと思います。

ぜひ、たくさんの学びと宝を日間賀島から持ち帰りましょう。

そして、お父さんやお母さんに、たくさんのお土産話をしてあげましょう。  
お家の方にとっての一番のお土産は、みんなの「成長」です。

おせんべいやキーフォルダーではありません。

大きなチャレンジを終えて、みんなが一段と遅しくなって帰る姿こそが、  
何よりのプレゼントになることでしょう。

お家の方々にとっても、今回の初開催行事はいろいろなご心配もあろうことか  
とかと思います。

新しい物事に挑む場合の多くは、期待と不安が大体同じくらいの量で同居  
するものです。

たくましく巣立とうとするお子さんの姿に、喜びばかりではなくどこか寂  
しさを感じる方もいるかもしれません。

私も、いつも同じような感覚をもって教育に臨んでいます。

どんどん成長していく姿は本当に嬉しいのですが、どこかどんどん遠くに行  
ってしまう姿が寂しくも感じられたりもするものです。

でも、そうした色んな思いが交錯することこそが、教育や子育ての面白さ  
であり醍醐味でもあるのだと思います。

この文章を書きながら、一本の動画を思い出しました。

入学する時の我が子への視点を描いた一本の動画です。

<https://www.youtube.com/watch?v=GRcKsdlyRyY>

色んな思いできっと明日の朝、お家の方々はお子さんを送り出してくれる  
ことと思います。その思いのバトンをしっかり受け取った上で、日間賀島で  
の2泊3日を過ごしてまいります。

そして成功ばかりでなく、つまずいたり上手くいかなかったりする経験を得  
ることも含めて、たくさんの学びと宝を持ち帰りたいと思っています。

明日の朝、名古屋駅の集合場所に子どもたちだけで到着した時点で、みんな  
の貴重な「はじめの一步」がスタートします。

ご自宅の玄関になるか、車を降りた瞬間になるか、ご家庭によってそれぞれ  
だと思いますが、動画のように「行ってらっしゃい」の一言に万感の思いを込  
め送り出していただければ幸いです。（自立への大切なワンシーンですね）

それでは、日間賀島での2泊3日の宿泊体験に、「行ってきます！」。

**☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください**

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

